

地域福祉フォーラム活動支援事業(再助成)活用状況

令和5年度新規再助成一覧

累計再助成数: 22

	地域		事務局	交付決定日	令和4年度交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
1	佐倉市	志津南地区	志津南地区社会福祉協議会	R5.7.10	100千円	地域住民の集いの場づくりのために、毎月1回100円喫茶「森の茶屋」を開催するほか、春先に高齢者の孤立化防止と見守りのために、一人暮らし高齢者を招いての食事会「ひなまつり昼食会」を開催する。	<p><1年目> 森の茶屋 ・毎回の開催内容(喫茶および出し物)について、打合せ会議を開催する。 ・開催日程と内容について地域内にポスターおよび回覧で案内する。 ・中志津・下志津地区: 8・11・1月を除く毎月第1土曜日に開催する。 上志津原地区: 偶数月の第2土曜日に開催する。</p> <p>ひなまつり昼食会 ・昼食会の献立、会の進行について打合せ会議を開催する。 ・民生委員を通じて、一人暮らし高齢者に開催案内を届ける。 ・ひなまつりの次期の日曜日に開催する。</p> <p><次年度以降> ・1年目同様の内容で事業を実施する。</p>
2	佐倉市	西志津地区	西志津地区社会福祉協議会	R5.8.4	100千円	佐倉市西志津地域に落語文化の浸透・定着を図るため、西志津地区社会福祉協議会として落語会を開催、継続したいと計画しています。	<p><1年目> 西志津地区社会福祉協議会(以下単に当地区社協と記します)では平成21年度より、江戸時代より現代まで日本の文化・風習・人情等を表現する落語文化を佐倉市西志津地区(以下単に西志津地区と記します。)浸透・定着させ、心和む西志津地区にしたいとの構想で「西志津落語会」を開催継続してきました。会場は西志津ふれあいセンター、ワンコインサロン(500円、100席余り)形式で地域に親しまれ、その間多くの真打、二つ名、前座の落語家さんや色物芸人(曲芸等)さんに出演頂き、西志津地区の毎年の恒例行事となっていました。しかし令和2年の新型コロナ感染拡大の影響で、地域のほとんどのイベントは中止となり、西志津落語会も中断しました。今年3月のマスク着用自己判断の開始、5月のコロナ2類より5類移行で、多くのイベントが再開されようとしています。当地区社協もボランティア活動を再開しようという計画しましたが、3年間の活動中止で運営資金が枯渇し、「西志津落語会」の再開もおぼつかない状態でした。しかし地域の皆さんの西志津落語会再開の要望は強く、また安心安全な地域・居場所作りを目指す地区社協として、再度「西志津落語会」を立ち上げ、落語文化の浸透・定着を目指すことにしました。</p> <p><次年度以降> ・1年目と同じ</p>
3	千葉市	新宿地区	千葉市社会福祉協議会 新宿地区部会	R5.9.5	50千円	高齢者が急病やケガなどの緊急時に救急隊が、迅速に適切な対応が出来る一助として「安心カード」を作成する。	<p><1年目> ・自宅において急病やケガで救急車等呼んだ時に救急隊や搬送医療機関に必要な情報をより早く提供できるよう、本人の氏名その他、親族への緊急連絡先、医療情報、薬の情報を記載した『安心カード』を作成する。 ・配布時に『安心カード』は救急隊や警察がかけつけた場合、冷蔵庫や玄関等のよく見える場所に掲示することを周知する。 ・見守り活動をかねて75歳以上の高齢者に配布する。</p> <p><次年度以降> ・以降の年度も同様に『安心カード』作成事業を行う。 ・確認作業 配布先の75歳以上の高齢者の状況確認と『安心カード』内容の見直し等。</p>
4	松戸市	矢切地区	矢切地区社会福祉協議会	R5.9.5	300千円	地域福祉の推進を慈雨に高齢者・障がい者・子ども等地域住民が交流できる場を提供し、地域に根ざした子どもたちの育成をはかるために「三世代交流ふれあい広場」を開催する。	<p><1年目> 事業名: 矢切地区ふれあい広場 23～矢切こどもまつり～ 開催日: 令和5年11月12日(日) 10時～15時 開催場所: 松戸市総合福祉会館及びみまど市民活動サポートセンター 事業内容: 6つの広場を展開する。 ①活動作品展示の広場(広報活動) ②参加・体験の広場 ③アトラクション・パフォーマンスの広場 ④模擬店の広場 ⑤バザーの広場 ⑥遊びの広場 出展・協賛団体: 42団体(予定) 来場予定者数: 1,500名 ※関係各位に、出展・協力・協賛をお願いし、実行委員会を立ち上げ、検討する。</p>

5	松戸市	明第2西地区	明第2西地区社会福祉協議会	R5.9.5	150千円	明第2西地区に存在するさまざまな団体や組織が地域に必要なテーマについて協力・連携ができる場として、明第2西地区社会福祉協議会が主催している「ふれあい広場」を活用する。令和5年度は関東大震災から100年の節目を迎えることや、当該地区が江戸川に隣接し河川氾濫時のハザードエリアにも指定されていることから、「防災」をテーマにふれあい広場を開催する。それぞれの団体や組織の特質と個性を活かして防災に備える重要性を地域住民に発信し、住民にとって地域の繋がりを大切にすることを第一歩とすることを目的とする。	<p><1年目> 11月26日(日)に古ヶ崎市民センターにて明第2西地区合同防災フェスタ2023(ふれあい広場)を開催する。準備にあたって、地域で活躍するさまざまな団体や組織に実行委員会のメンバーとして参加してもらい、当地区の防災意識の向上に必要なことを検討していく。地域住民には、ふれあい広場への参加をとおして防災と地域の繋がりの重要性について理解を深めてもらう。</p> <p><次年度以降> 1年目と同、明第2西地区社会福祉協議会が主催するふれあい広場を活用し、地域で活躍するさまざまな団体や組織と連携し、地域に必要なテーマについて検討を重ね、地域住民へ情報発信を行っていく。次年度以降、「防災」のテーマを継続するか、新たなテーマを継続するか、新たなテーマを設けるかは、1年目の開催結果と地域の状況を見て判断していく。</p>
6	習志野市	藤崎地区	習志野市社会福祉協議会 藤崎支部	R5.9.5	200千円	近年、宅地の分譲等により転入してくる新住民が増えている地域でもあることから、平成26年度、平成27年度に実施した地域福祉フォーラムにおいて、地域が一体となり、「藤崎よいとこ音頭」を制作しました。その後、コロナ禍を経て地域住民の繋がりを再確認するため、藤崎小学校創立50周年記念式典に合わせ、「藤崎よいとこ音頭」を、藤崎の未来を担う子どもたちに伝承すべく、地域住民とともに行事に取り組んでいきます。なお、コロナ禍から取り組みはじめた「駄菓子屋ふーちゃん」の更なる充実を図り、様々な世代の住民同士の交流、健康づくり、生きがい支援につなげていきます。	<p><1年目> 実施事項: ○構成団体が隔月1回藤崎地区福祉フォーラム(意見交換会)を開催する。 ○藤崎小学校創立50周年記念式典に合わせ、「住民同士がつながりを持てるような企画(藤崎よいとこ音頭)を実施し、様々な世代の交流、健康づくり、生きがい支援に繋がる地域行事を実施する。</p> <p><次年度以降> 実施事項: ○構成団体が隔月1回藤崎地区福祉フォーラム(意見交換会)を開催する。 ○様々な世代の住民同士の交流、健康づくり、生きがい支援につなげるよう、既存の「ふれあいきいきサロン」や「子育てサロン」だけでなく、「駄菓子屋ふーちゃん」を行う中で、誰もが集い楽しめる場所を充実させていく。</p>
7	松戸市	明第1地区	明第1地区社会福祉協議会	R5.11.7	150千円	地域福祉推進のため多世代交流をテーマに「ふれあい広場」を開催し、地区社協の存在や活動が理解されるよう啓発活動に努めていく。また既存の事業については地域住民の声を聞きながら事業内容の向上・充実を図れるよう努める。	<p><1年目> 社会状況が大きく変わる時代を迎え、地域住民がかかると問題や悩みを地域の福祉課題と捉え、地域の人々がお互いに協力し合ってその解決を図っていくための活動が実現できるような事業を展開していく。 ・独居高齢者の見守りのためのふれあい会食会を2会場実施。 ・月1回高齢者サロン「でんでんむし」「健康体操」「スマホ相談会」の実施。 ・広報誌「明るい福祉」を年3回発行。</p> <p><次年度以降> ・現在実施している事業については継続して実施。 ・新たに多世代交流をテーマに民生委員・町会長・ボランティアが中心となって行うい地域のお祭り「ふれあい広場」を開催予定。</p>

8	我孫子市 湖北台地区	湖北台地区社会福祉協議会	湖北台地区社会福祉協議会	R5.11.7	300千円	<p>これまで推進してきた地域福祉を見直し、地域福祉フォーラムによりつながりを強化する。具体的には、小学校や中学校での地域行事開催を通じて、生徒への福祉教育の推進や生徒と地域の高齢者との世代間交流を推進する。</p>	<p><1年目> 発足から26年目を迎え、担い手の高齢化、地域の疎遠化が進む中で、地域福祉ネットワークの希薄化、地区社協活動の停滞が見受けられる。地区社協の主たる活動は、知育福祉ネットワークを活用し、見守り活動と世代間交流を推進することであり、改めて目的・課題を見直し活動を推進する必要がある。 地域福祉フォーラム設置支援事業で、中学校(生徒)にアプローチ(場所の提供、呼びかけ、生徒の参加、福祉教育など)を図り、学校と関りを強め、学校(生徒)を軸とした地域行事を定着させる。また、実施にあたっては、主に湖北台11見守り組織や行政・なんでも相談室とのつながり(ネットワーク)を充実させ、改めて地域福祉ネットワーク(関係性)を再構築することを目的とする。</p> <p>湖北台中学校3年生向け認知症サポーター養成講座(湖北台中学校) 体育館や多目的室を利用し、高齢者疑似体験・認知用サポーター養成講座を実施する予定。また、お手伝い、参加者要員として高齢者見守り組織会員(高齢者)に協力してもらう。 共催:湖北・湖北台高齢者なんでも相談室、湖北台中学校</p> <p>湖北台健康祭り(湖北台中学校) 湖北台中学校の体育館等を利用し、健康祭りを実施。身体測定・体力測定などの健康チェック、認知症予防やロコモ予防のための健康教室を実施する予定。我孫子市の健康づくり支援課(保険センター)やなんでも相談室にご協力をいただく予定。 我孫子市湖北台地区の高齢者に参加の呼びかけ等を行う。 協力:我孫子市立湖北台中学校、我孫子市健康づくり支援課(保険センター)、湖北・湖北台高齢者なんでも相談室</p> <p><次年度以降> 引き続き、事業を継続し、学校(生徒)を軸とした地域行事開催を根付かせ、生徒と高齢者(地域住民)の交流を図っていく。また、学校行事(文化祭や合唱祭など)への協力、三かもしていきたい。 湖北台中学校3年生向け認知症サポーター養成講座(湖北台中学校) 湖北台健康祭り(湖北台中学校)</p>
9	八千代市 大和田中学校区	八千代市社会福祉協議会 大和田支会	八千代市社会福祉協議会 大和田支会	R5.12.5	100千円	<p>コロナ禍、乳幼児を持つ親に関する事業を中止せざるを得ない状況にあったが、その間、孤独な子育てに追い込まれ、虐待件数も増加している現状の中、地域福祉フォーラムを通して、子育てを地域で見守る伴走者を増やしていくための子育て応援講座と当事者である養育者(特にママ)に向けて、文化芸術の手法を使ったワークショップで親子の安心と癒しの時間を作っていく子育て支援事業を実施する。</p>	<p><1年目> ・今年度の子育て支援事業の開催内容について検討する会議を開催。 ・「子育て応援講座」と「0・1・2歳の親子のためのコンサート」の開催決定。 【子育て応援講座】 目的:子育ての現状やその背景を現場に関わる講師を招き、リアルな現状を知り参加者と交流しながら子育てを見守る地域づくりを考える。 第1回「八千代市の子育ての現状を知る」 行政から講師 八千代市子ども相談センター 岡澤さん 八千代市子ども支援センター すてっぷ21大和田所長 白木さん 第2回「ママパパラインから見える養育者の現状」 NPOから講師 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 中川さん ・広報活動 チラシ作成、Facebook・自治会町内会回覧・地域子育て支援センター他で周知 ・0・1・2歳の親子のためのプロのパフォーマーによるコンサート 「歌子さんの笑顔のコンサート・楽器あそび」を実施する。 リーフ企画 うたこさん ぴんたろうさん</p> <p><次年度以降> ・次年度以降も同様に子育て支援事業「子育て応援講座」を行う。行政との関係性を深める。 ・令和6年度より、読み聞かせや人形劇など地域で活動するボランティア団体や市民活動団体と連携して共にプログラムを考え、「子育てフェスタ」を開催する。 ・プロのパフォーマーによる乳幼児向けのワークショップを実施する。 いっしょに遊びながら、我が子の行動や著しい成長発達を知ったり感じたりすることが、親としての喜びになり、子育てを前向きに楽しめるようになることを目的に、活動を続ける。</p>

令和4年度新規再助成一覧

累計再助成数:13

	地域		事務局	交付 決定日	令和4年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
1	佐倉市	臼井地区	臼井地区社会福祉協議会	R4.7.5	100千円	日常生活支援事業「愛の手サポート」は、支えあいと交流で笑顔が生まれ、いきいきと暮らせる地域を目指して活動を積極的に推進、日常生活に支援を必要とされる方に対し地域で支えあえるサポートを実施し地域福祉の一層の向上に努めていきたい。	<p><1年目> 可能な限りの新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、利用会員、サポーター会員、賛助会員の皆様と愛の手サポートセンターが信頼の環でつながり、地域の中で「誰かに必要とされている」、「誰かの役に立っている」という実感が一層持てるような活動にしていきたいと考えています。</p> <p>【実施予定の重点活動項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用会員、サポーター会員、賛助会員の増員を図る。 ・サポート利用件数の増加を図る(利用会員への御用聞きなど潜在利用者へのアプローチ) ・広報活動(自治会、町内会、地域の高齢者クラブ等で愛の手サポート活動の説明会開催、チラシの配布) ・自治会、町内会、地域包括支援センター、高齢者施設等と相互理解を深め、支えあい活動の円滑な運営に努める。 ・コーディネーター、サポーターの研修。 ・書類の整備(各種マニュアル、手続き書類・管理書類の見直し等)。 <p><次年度以降></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用会員、サポーター会員、賛助会員の増員を図る。 ・サポート利用件数の増加を図る(利用会員への御用聞きなど潜在利用者へのアプローチ、利用会員のニーズの把握とサポート体制の整備を図る。) ・親切丁寧な対応と作業に努める。事故ゼロ、クレームゼロの継続に努める。 ・広報活動(自治会、町内会、地域の高齢者クラブ等で愛の手サポート活動の説明会開催、チラシの配布) ・自治会、町内会、ふるさとづくり協議会、地域包括支援センター、高齢者施設等と相互理解を深め、支えあい活動の円滑な運営に努める。 ・コーディネーター、サポーターの研修。 ・書類の整備(各種マニュアル、手続き書類・管理書類の見直し等)。 ・愛の手サポートセンターの内部業務の効率化を図る。 ・予算の効果的な執行、運営資金確保の検討。

令和3年度新規再助成一覧

累計再助成数:12

	地域		事務局	交付 決定日	令和3年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
1	香取市	本宿地区	本宿地区社会福祉協議会	R3.8.4	96千円	誰もが気軽に立ち寄れる居場所を提供する活動【コミュニティカフェ(仮称)】	<p><1年目> 一年目の前半(10~12月)は、地区社協広報や社協本会のホームページなどで周知を行い利用者拡大に努め、後半(1~3月)はお茶を飲むだけでなく催し物や講演会なども行い充実させていく。</p> <p><次年度以降> 前年度に引き続き、月4回(午前の部・午後の部×2日)で「コミュニティカフェ(仮称)」を実施する。また、ここで情報を得た生活課題や福祉ニーズは、生活支援体制整備事業に繋げていきたい。この「コミュニティカフェ(仮称)」で生まれるであろうグループ(仲間)には、そのグループによるサロン立ち上げを仕向けていきたい。</p>
2	匝瑳市	共興地区	共興地区社会福祉協議会	R3.8.4	300千円	近年の想定を超えた災害時に備えて、共興地区内の防災ネットワークを深め、地域住民への防災意識を高めるとともに、防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながっていくことや、防災をポジティブに考えてもらえることを目的とする。	<p>これまで、災害時に備えるための取り組みを共興地区社会福祉協議会として行ってきたが、近年は想定を超えた災害が多く発生しており、被害に迅速に対応できるように地区内のネットワークを強化していく。具体的な活動として、防災マップ等の作成による可視化を行うことで、地域住民への防災意識を高めていく。防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながり、防災をポジティブに考えてもらえることを目的とする。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した避難所運営の研修を行っていく。</p>
3	匝瑳市	野田地区	野田地区地域福祉フォーラム実行委員会	R3.9.7	150千円	地域福祉フォーラム設置支援事業を活用したことにより、多くの集いの場が創設できたため、更なる集いの場を創設し、地域コミュニティの構築につながっていくことを目的とする。また、近年の想定を超えた災害時に備えて、防災ネットワークを深め、防災意識を高めていくことを目的とする。	<p><1年目> 近年は想定を超えた災害が多く発生しており、被害に迅速に対応できるように地区内のネットワークを強化していく。具体的な活動として、模擬防災訓練等を行うことで、地域住民への防災意識を高めていく。防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながっていくことを目的とする。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。</p> <p><次年度以降> これまで、野田地区地域福祉フォーラム実行委員会において集いの場の創設に向けた取り組みを行ったことにより、計7ヶ所の集いの場を創設することができた。しかし、このたびの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動が停滞したため、地域コミュニティの再構築を行い、また、新たなコミュニティの構築を目指していく。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。</p>

	地域		事務局	交付 決定日	令和3年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
4	匝瑳市	栄地区	栄地区地域福祉フォーラム 実行委員会	R3.9.7	150千円	地域福祉フォーラム設置支援事業を活用したことにより、多くの集いの場が創設できたため、更なる集いの場を創設し、地域コミュニティの構築につながっていくことを目的とする。また、近年の想定を超えた災害時に備えて、防災ネットワークを深め、防災意識を高めていくことを目的とする。	<p><1年目> 近年は想定を超えた災害が多く発生しており、被害に迅速に対応できるように地区内のネットワークを強化していく。具体的な活動として、模擬防災訓練等を行うことで、地域住民への防災意識を高めていく。防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながることを目的とする。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。</p> <p><次年度以降> これまで、栄地区地域福祉フォーラム実行委員会において集いの場の創設に向けた取り組みを行ったことにより、計6ヶ所の集いの場を創設することができた。しかし、このたびの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動が停滞したため、地域コミュニティの再構築を行い、また、新たなコミュニティの構築を目指していく。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。</p>
5	香取市	東大戸地区	東大戸地区社会福祉協議会	R3.9.7	55千円	深刻化してきた東大戸地区高齢化に対し、地域の公民館等を拠点とした集いの場等を整備し、介護予防および支え合い活動を推進する。	<p><1年目> 東大戸地区協議体会議を重ねる中で、介護予防の観点から、体操や脳トレ等を定期的に行う「集いの場」を増やそうと動き始めた。その際、直接、畳に座って行うことが困難な高齢者が多く、近隣の小学校からパイプイスを借りてきて開催する集いもあった。そのため、今後の開催に向けて、パイプイスを購入することで、開催日時を柔軟に対応することが可能となり、参加者の着座の負担を軽減でき、高齢者の引きこもりを予防し、参加者促進を図る。</p> <p><次年度以降> ○東大戸地区における小地域において、支え合い活動の必要性を理解し、広げていくために、地域の公会堂等において、体操やお茶会を行いながら、ミニフォーラムを開催していく。地域に合わせたペースで開催していき、会場整備に必要なイス、テーブル、感染症予防に必要な備品等を購入する。 ○コロナ感染予防のため、屋外でできる「集いの場」も創っていくこととし、ラジオ体操等を行える場を創る。高齢者だけでなく、学校の長期休暇には子供達も一緒に参加できるような場にするを目標とし、それに必要な会場整備、広報活動を行う。</p>
6	香取市	香取地区	香取地区社会福祉協議会	R3.9.7	100千円	閉じこもりを予防するための地域サロンおよび買い物支援活動を行う。	<p><1年目> ○買い物に困っている高齢者の買い物支援活動継続のための検討会議を開催し、現在の活動を拡大できるようにする。 ○地域サロン開催に向けた検討会議の開催と活動開始に向けた取り組み。 ○活動に参加してもらえ地域住民を対象に、「活動サポーター養成講座」の開催。 ○活動内容の周知と参加者募集のための広報活動をする。</p> <p><次年度以降> ○次年度以降は、買い物支援と地域サロン運営を継続しつつ、活動サポーター養成講座を開催していく。 ○活動を通して新たな課題があった場合は、現在の活動の形を変えたり、新たな活動を創生したりできるように話し合いをおこなっていく。</p>
7	匝瑳市	豊和地区	豊和村づくり協議会	R3.10.6	50千円	夫婦共働き世帯の子供達を対象に、学校教育における学び以外の内容について、子供達の様々な体験が実社会生活に役立つことを目的として、夏・冬・春休みの期間において「こども教室」を実施する。	<p><1年目> 豊和小学校における「放課後子ども教室」は、夏休み等は休校となるため、保護者より夏休み等に子どもを預かってもらえる場が欲しいという要望があり、豊和村づくり協議会が中心となって「こども教室」を実施することとなった。こども教室では、宿題のサポートの他、「監業体験」「和太鼓体験」「ソーラーカーづくり」等、地域の人たちとの交流を含めた体験活動を行っていく。 なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。</p> <p><次年度以降> 次年度以降引き続き、夏・冬・春休みの期間において、「こども教室」を実施していく。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施を見合わせている高齢者の方々のグランドゴルフ体験、地域探検、農業体験などの活動も、感染状況を踏まえながら実施の可否について検討していく。</p>
8	千葉市	花見川区花見川地区	千葉市社会福祉協議会花見川地区部会	R3.11.4	50千円	地域住民の防犯・防災に対する意識・関心を高めるとともに、地域の連帯感を醸成することを目的に防犯・防災パトロールを推進する。そして、本活動を契機として、地区部会エリア内に設置されている避難所運営委員会の平時の活動の促進を図り、有事の活動に繋がられるようにする。	<p><1年目> ・地区部会エリア内の町内自治会の防犯活動の取り組みの現状把握と課題抽出 ・平常時の防犯・防災パトロール実施地区の選定(1自治会) ・歳末パトロール(単発)実施地区の選定(3~5自治会) ・選定地区における防犯・防災講習会の開催 ・選定地区における防犯・棒愛パトロールの地域住民への周知、参加者の募集 ・選定地区での防犯・防災パトロール、歳末パトロールの実施</p> <p><次年度以降> ・平常時の防犯・防災パトロール実施地区の選定(2~5自治会) ・歳末パトロール(単発)実施地区の選定(8~10自治会) ・選定地区における防犯・防災講習会の開催 ・選定地区における防犯・棒愛パトロールの地域住民への周知、参加者の募集 ・選定地区での防犯・防災パトロール、歳末パトロールの実施 ・花見川地区部会エリアにおける5つの避難所運営委員会の中から活動を促進し、他の委員会の模範となりうるモデル的な委員会を選定。 ・感染症にも配慮した避難所の使用範囲や使用方法、生活ルールなどを見直し、最終的には運営マニュアルの更新作業を実施。</p>

地域		事務局	交付 決定日	令和3年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
9	八千代市 米本地区	八千代市社会福祉協議会 米本支会	R3.11.4	190千円	米本地区の地域共生社会の実現に向け、推進事業として「ほっこりカフェ」の運営及び米本南地区防災訓練の実施	<p><1年目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会推進事業として「ほっこりカフェ(共生カフェ)」を設立。特に障害者に対する理解を深めるため、障害のある方に担い手として協力していただく。 ・避難行動要支援者を支えるため、様々な分野の方に集まっていただき、話し合いの場を設ける。また、多くの住民に周知するため「合同防災訓練」を実施する。 <p><次年度以降></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこりカフェの運営を通じ地域共生社会について考えていく。 ・次年度以降も、防災意識を高揚させると共に、災害を通じて支え合いのネットワークを拡充していく。 ・米本地区が小中一貫校となるため、新たなネットワーク構築のための話し合いの場とする。
10	香取市 香西地区	香西地区社会福祉協議会	R3.11.4	100千円	認知症予防のための地域サロンを運営	<p><1年目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の区民センターを利用したサロンを開催。 ・毎週定期的に健康体操等を行い、無理なく体を動かすことで参加者の介護予防や認知症予防を目的とした活動を実施する。 ・毎月調理実習や視察研修、季節行事等を行い、参加者の活動意欲の向上を図る。 ・近所の区民センターを利用することで、参加者が気軽に出かけられるため、孤立感の軽減や引きこもりの防止となり、生きがいづくりにつながる。 <p><次年度以降></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き地域サロンの運営を行う。 ・毎週定期的に行う健康体操に加え、防災に関する講座などを開催し災害時の声かけ・緊急事態のスムーズな対応や地域の防災力向上を図る。 ・気軽に集まれる場所で共に活動する仲間を作ることで自宅以外での自分の居場所ができ、仲間同士がお互いのことを気に掛けることにより、見守り環境の整備と地域の福祉力の向上を目指す。
11	香取市 小見川中央	小見川中央地区社会福祉協議会	R3.12.8	100千円	現在の活動の拡充と新規の見守り事業の開始	<p><1年目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している1人暮らしの集いの内容に専門職(作業療法士)を講師としてお呼びし、体操や健康講座を追加することで高齢者の介護予防に取り組む。 ・1人暮らし高齢者を中心とした見守り活動の実施。その際に茶菓や弁当を持参し交流を図りながら活動を実施する。 ※元気な高齢者も見守り活動に参加できるように声掛けしていく。 <p><次年度以降></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集いの場(専門職による介護予防の取り組み含)の継続に加え、福祉教育の一環としてレクなどを通じて地域の小中学校との交流を図れるようにする。 ・見守り活動を継続することで異変の早期発見に努めるとともに、地域のネットワークを構築できるような働きかけを行う。 ・各活動を通して高齢者の活躍の場を増やすことで、地域包括ケアシステムの構築に必要な生活支援と介護予防の取り組みを強化できるようにする。
12	四街道市 四街道北中学校地区	四街道北中学校地区社会福祉協議会	R3.12.8	300千円	児童・生徒の放課後の居場所及び自主学習のできる環境の提供を目的に行う。	<p><1年目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭以外の居場所を地域の中につくることで孤立・孤独感の解消をはかり、地域ボランティアとの交流により児童・生徒自身の自己有用感が高められることを目指す。 ・インターネット等を活用し児童・生徒自身が自立して学習に取り組める環境を提供する。 <p><次年度以降></p> <ul style="list-style-type: none"> ・以降の年度も引き続き事業を実施していく。体制が整い次第、開催日数の拡大や内容の充実を図る。 ・食事提供も視野に入れ、子ども食堂的な機能を持たせることも検討していく。